

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社プレパレーション

② 施設・事業所情報

名称：武蔵小杉雲母保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：岡崎 みづほ	定員（利用人数）： 60 名
所在地：神奈川県川崎市中原区市ノ坪363-7	
TEL：044-455-8084	ホームページ： https://www.kirara-hoikuen.com/about/hoikuen/musashikosugi/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2018年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社モード・プランニング・ジャパン	
職員数	常勤職員： 16 名 非常勤職員 0 名
専門職員	（専門職の名称） 名 保育士 11名
	園長 1名 看護師 1名
	主任 1名 栄養士 2名
施設・設備の概要	（居室数）保育室 3室 （設備等）大人トイレ 3箇所
	遊戯室 3室 子どもトイレ 3箇所

③ 理念・基本方針

企業理念：輝く大人が 輝く子供と子供の未来を創る

園の保育スローガン：優しい心と元気な子ども
～みんな元気に、活発に、動ける子どもを育む～

③ 施設・事業所の特徴的な取組

食育について（クッキング保育・給食・給食フェア）

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年 7月 4日（契約日） ～ 2023年 2月 8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥ 総評

◇ 特長や今後期待される点

【特長】

・職員間の連携に努めサービスの質の向上に繋がっています
園は保育サービスの質の向上に向け、「職員間の連携」を重点的に取り組んでいます。職員会議の定期的な開催に加え、日々の保育の中での細やかな情報交換、研修レポートの報告による知識の共有など、多角的な職員間の連携により保育サービスの質を高めています。とりわけ、雲母保育園の理念Kiraraismの一つでもあるテーマ《みんなで育つ》には、「悩みや相談は一人で抱え込まずに、みんなと一緒に解決していきましょう。」と掲げており、職員間のチームワークを促進する組織体制に取り組んでいます。

・クッキング保育や栄養士の保育参加など、子どもが食への興味・関心を持てる取り組みがあります

子どもの自ら食べたいという気持ちを伸ばしていけるよう園では、多角的に食育に取り組んでいます。0,1歳児では、野菜に触れスタンプをして楽しんだり、2歳児からはクッキング保育として、調理の最初から子どもたちが携わり、包丁などの調理器具を使って工程を学ぶ機会を設けたりして、食への関心を高める取り組みがあります。そのほか、定期的に栄養士が保育に参加し、日常的に子どもたちが栄養士と関わる機会を設け、信頼を深める仕組みがあります。

・手作り玩具を作成し、ぬくもりを感じる環境を整備しています

子どもが日々手にする玩具は、職員の手作りのものを中心に用意しています。作成にあたっては、子どもの年齢や発達に合わせたものを制作し、手先の発達を促す玩具や子どもの興味・関心があるものを作るなど、子どもの実態に即したものとなっています。また、保育園内は、木目調を基本としており、日常的に木のぬくもりが感じられる雰囲気となっていて安心感が生まれています。安心できる環境の中で、「子どもの健康な身体と心を育む」活動が展開されています。

【今後期待される点】

・中長期計画の一部に人材育成を掲げ更なる体制の強化に取り組んでおり、今後の成果に期待します

職員の更なる能力向上を図るため、園は人材の育成に注力しています。求められる知識やスキルに関わる研修の受講に加え、実際の保育から得られる経験や職員からの意見交換により、様々な見識に触れることで幅を広げた保育の展開ができるように努めています。とりわけ、園の3年間のビジョンの一つとして人材の育成を定めており、園の理念に基づいた文化を全職員へ共有・各職員に合わせた研修の受講推進・施設長による職員サポートの展開・職員同士が尊重し合う環境設定などを掲げ、今後も職員の育成に重点的に取り組むこととなっており、その成果に期待します。

・コロナ禍が落ち着いた際には、更なる地域交流の取り組みに期待します

園では、戸外への散歩時に近隣の住民と挨拶を交わすなど、地域との関わりを構築する取り組みがありますが、現在、コロナ禍のため、地域の行事に参加したり、地域の方を園の行事に招いたりするなどの交流の機会が制限されています。また、アンケートの結果からも、「地域との交流の機会を増やしたい」という意見が複数みられており、園としては、感染状況を見極めながら地域とのコミュニケーションを強化していきたいと考えています。制限が緩和された際には、地域とのつながりが深まる活動が多く持たれることに期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回第三者評価を受審し、改めて園全体としての課題や、職員間での課題など多くの気づきがありました。また、園内のみでの振り返りではなかなか気づくことの出来なかった課題も評価結果を通じて知ることが出来ました。

今回の評価結果を踏まえて、園全体で課題の改善に取り組み、職員の更なるスキルアップに努め園運営を行なうとともに、地域交流の機会を多く作っていくことで、地域の育児支援の場としての役割を果たしていけるようにしたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり